令和８年４月22日

長浜地区
地区別事前復興まちづくり計画 ワークショップ資料

目　次

ワークショップの進め方＿＿P2

発災から復興まちづくりの流れ＿＿P4

事前復興まちづくり計画とは＿＿P5

地区の現状と災害リスク等＿＿P9

ワーク１：長浜のいいところ残したいもの、
普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。＿＿P12

復興パターンの概要説明＿＿P13

ワーク２：復興パターン３案について、意見を共有しましょう。＿＿P21

ワーク３：楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。＿＿P22

次回開催のご案内＿＿P23

高知市　防災対策部 防災政策課

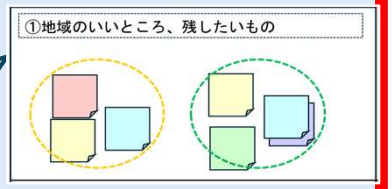
ワークショップの進め方（全体）

第１回ワークショップ（計100分）

・事前復興まちづくり計画の目的
・地区の現状と課題を説明　（15分）

ワーク１　地区のいいところ・残したいもの
困っていること　（25分）

Point
被災後の「ビジョン=目指すべき姿」へつなげる



・復興パターンの概要説明　（10分）

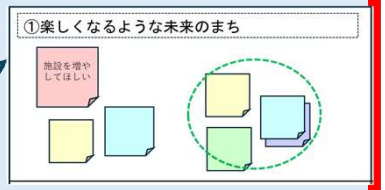
ワーク２　復興パターンについて感想　（25分）

Point
復興パターンに対する意見を述べてもらい
第2回目に修正案を提示



ワーク３　楽しくなるような未来のまちを想像する　（20分）

Point
ゾーニングに対する意見を引き出す



・まとめ（5分）

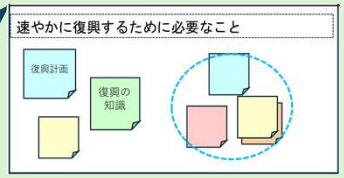
目標　自分の地区の特徴を知ってもらい、復興パターンの意見をもらう

第２回ワークショップ（計100分）

・第1回ワークショップ振り返り（ワーク１、ワーク３）　（15分）
・目指すべき姿(案)の提示　→ 意見交換１（25分発表込み）
・第1回ワークショップ振り返り（ワーク２）
・修正復興パターン案の提示　→ 意見交換２
（説明10分　ワーク20分　発表5分）

ワーク４　速やかに復興するために必要なこと（20分）

Point
・被災後の自立再建を意識してもらう
・復興でのすべきことを知ってもらい復興中の活力につなげる



・まとめ（５分）

目標　復興ビジョンを取りまとめ、修正復興パターンの意見をもらう

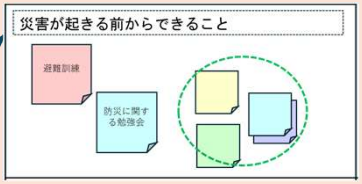
第３回ワークショップ（計100分）

・第2回ワークショップ振り返り（意見交換１）
・最終目指すべき姿(案)の提示
・第2回ワークショップ振り返り（意見交換２）
・最終復興パターン案の提示
→ 意見交換３（50分発表込み）

・第2回ワークショップ振り返り（ワーク４）

ワーク5　災害が起きる前からできること（35分発表込み）

Point
防災意識の向上
地域での防災活動の啓発



・まとめ（15分）

目標　復興パターンの取りまとめ

地区別事前復興まちづくり計画とは？

被災後、早急に復興が進められるように
復興パターン・土地利用の選択肢をあらかじめ用意しておく

次世代へバトンタッチ!!

被災後　被災状況に応じて復興パターン・土地利用を選択



○本日のワークショップの進め方

①事前復興まちづくり計画の目的
　地区の現状と課題（18:30～18:45）





②ワーク１：**長浜のいいところ・残したいもの、普段の生活で困っていることについて意見を共有しましょう。**　（18:45～19:10）





③復興パターンの概要説明（19:10～19:20）

④ワーク２：**復興パターンについて意見を共有しましょう。**

⑤ワーク３：**楽しくなるような未来のまちを想像してみましょう。**（19:20～20:05）

⑥まとめ（20:05～20:10）





発災から復興まちづくりまでの流れ

発災（直後）



避難・避難所（直後～数か月）

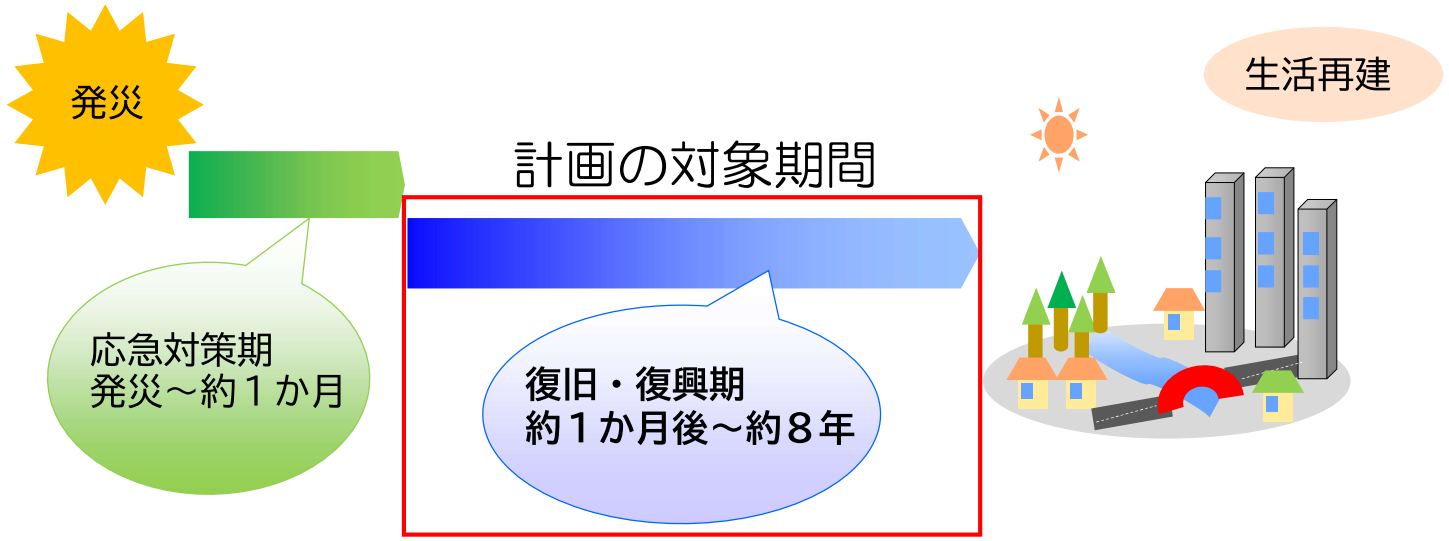


ここから

復興まちづくり検討
（数か月～）



復興までの目標を約８年とし、本計画の対象期間は、
発災から約１か月以降の「復旧・復興期」



事前復興まちづくり計画とは

被災前に作成

高知市

事前復興まちづくり計画

・復興基本方針
・地区別事前復興まちづくり計画
など

地域の方々の想い

被災状況に応じ速やかに策定

地域の方々の意向

被災後に作成

高知市

復興計画

・復興計画の区域
・復興に関しての基本事項
など

※大規模災害からの復興に関する法律



［大規模災害からの復興に関する法律に基づく復興計画　作成マニュアル　抜粋］

復興計画は、特定大規模災害による被害を受けた地域の復興に向けたまちづくり・地域づくりのための計画として地域の様々な意見を考慮して作成するものである。

地区別事前復興まちづくり計画とは

地域ごとの特性やリスクに応じて、
具体的な復興まちづくりの方針等を取りまとめたもの

何を考えるの？

①土地利用　　②復興の仕方　など

※復興パターンを確定させるものではない

どうやって進めるの？

市で作ったたたき台を基に、まちのみんなで
話し合おう！

次世代へバトンタッチ

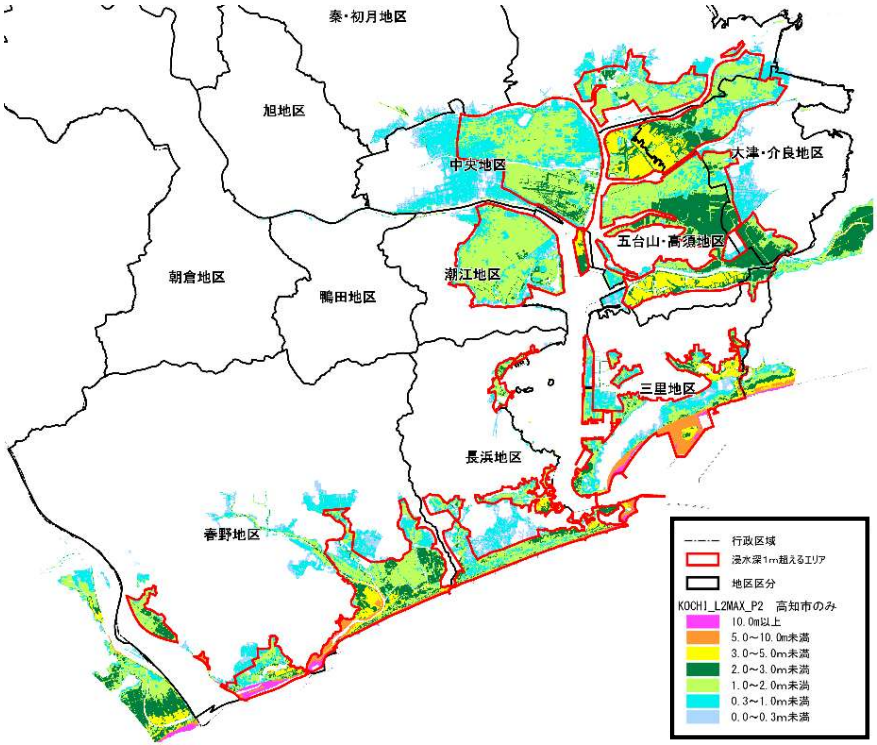




＜対象地区及び対象区域＞

高知県が令和６年５月に公表した新しい津波浸水シミュレーションを基に、計画策定の対象となる地区を決定。

中央、潮江、長浜、三里、春野、五台山・高須、
大津・介良、布師田・一宮



復興まちづくりの事例



狭い道が多い

津波から避難できる
高い建物が少ない



被災したまちを単に元の姿に戻すのではなく、被災前に抱えていた課題や問題点を整理・改善することで、より良い復興（ビルド・バック・ベター）の実現が可能となる。

①避難路となる広い道路の整備



②津波避難ビルとなる市営住宅の整備



③河川の景観を生かした観光･にぎわい拠点の整備

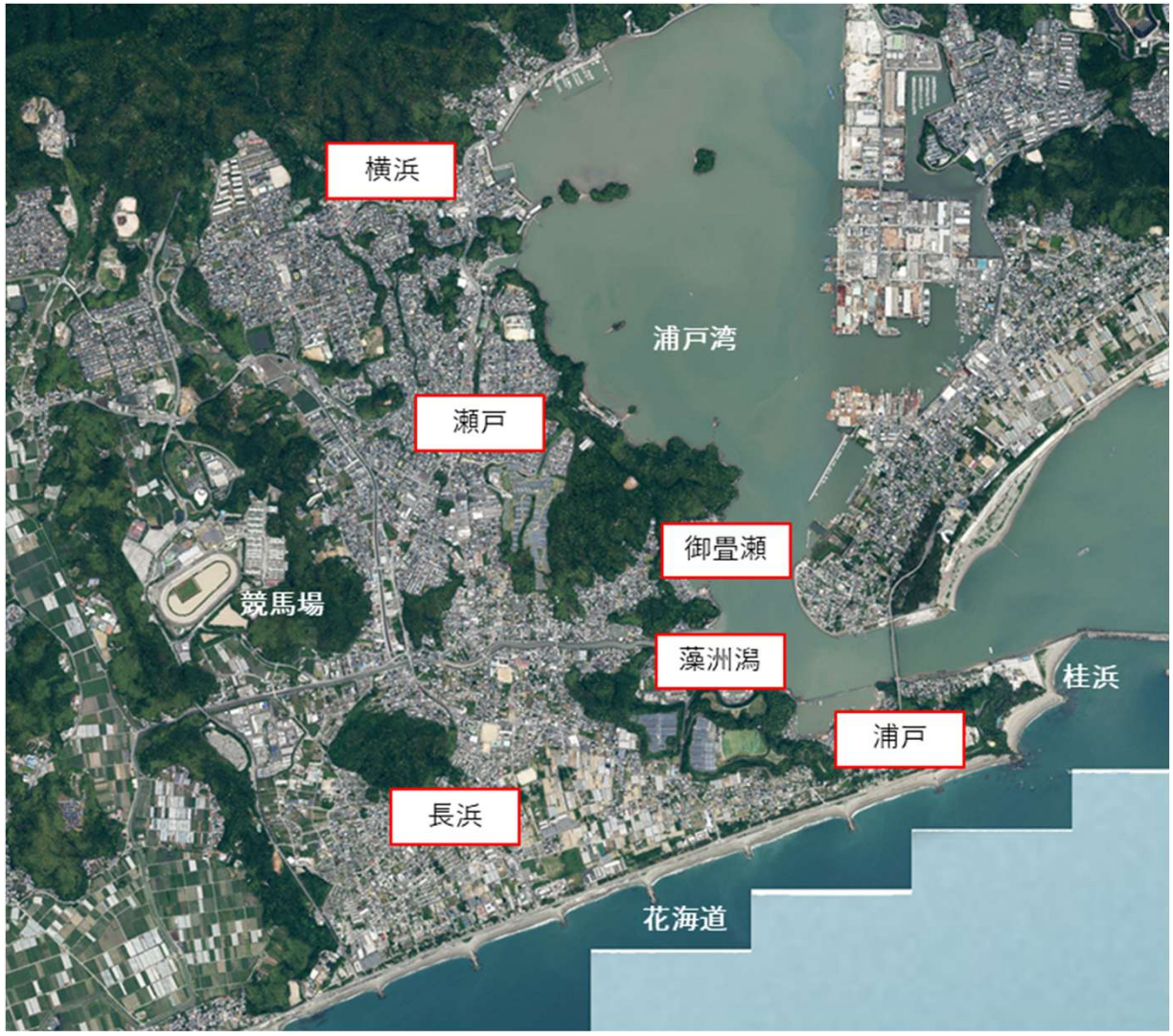


想定される災害及び復興対策

想定される災害	復興対策(面的な被害が生じた場合)
津波：最大クラス(M9.1)の津波を想定。内陸部１～２ｍ、沿岸部は２～５ｍ。	津波浸水深に応じ、地域特性や被害特性をふまえた復興パターン
揺れ：震度６から７による被害が想定。	原則、現地再建（建物築年代や道路事情に応じ区画整理事業等）
液状化：面的な液状化の恐れがある地域が分布。	原則、現地再建（被災状況に応じ宅地液状化防止事業等）
土砂崩れ：揺れにより土砂崩れが発生する可能性。	現地再建、被害の恐れが残る場合移転等
火災：木造密集地域では火災が広がる可能性。	現地再建、建物耐火性向上消防活動円滑化のための道路等基盤の整備



【長浜地区の現状】



人口

- 人口（令和７年４月時点）
  総数25,342人（65歳以上　9,008人）
  対象区域　総数6,106人（65歳以上　2,615人）
  少子高齢化の進行。

土地利用

- 【横浜・瀬戸地区】
  海岸及び県道沿いに住宅及び商業施設が広がり、内陸部は、ニュータウンの開発により、良好な市街地が整備されている。
- 【御畳瀬、藻洲潟、浦戸地区】
  海岸の近くに木造住宅が密集しており、狭隘な生活道路も見られる。
- 【長浜地区(花海道沿道)】
  花海道と沿道の樹林地・墓地より内陸部に市街地が形成。一部に市街化調整区域が存在する。

産業

- 従業者数では、医療・福祉が最も多くなっており、卸売・小売業に次いで、建設業、製造業も多い。
- 長浜産業団地や藻洲潟地区など事業所の集積しているエリアが地区内に点在している。

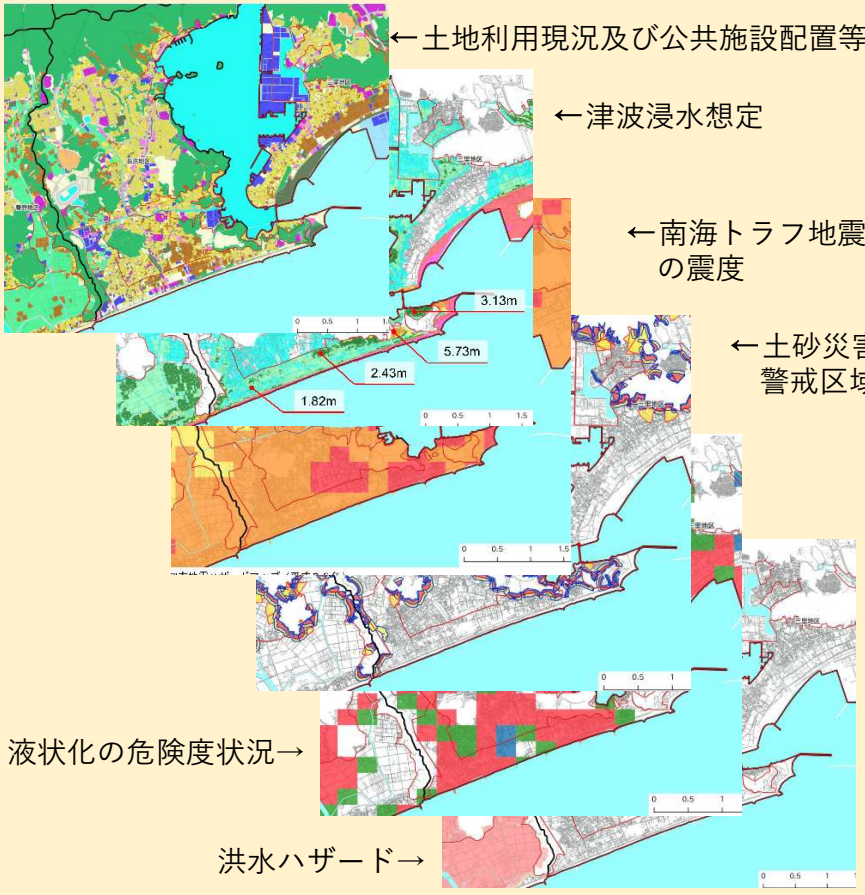
文化

- 若宮八幡宮御神幸祭、神田（どろんこ祭り）
- 坂本龍馬記念館や長宗我部氏関係の史跡などの文化財が存在

【災害リスク】

データを重ね合わせる

＜長浜地区の災害リスク等＞



①共通リスク

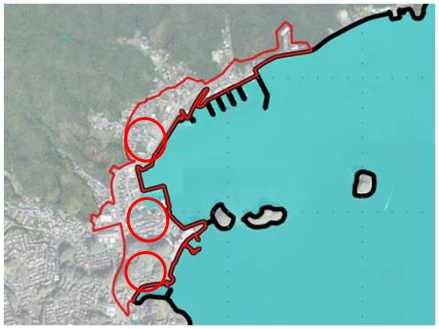
- 沿岸部の集落で津波浸水深２ｍ※を越える。
- 震度７の揺れが予想される地域が南部に存在
- 沿岸部や農地周辺では液状化の可能性がある。
- 土砂災害警戒区域が分布している。

※L2津波を想定

②重点リスク

◯ 浸水深が２ｍ以上

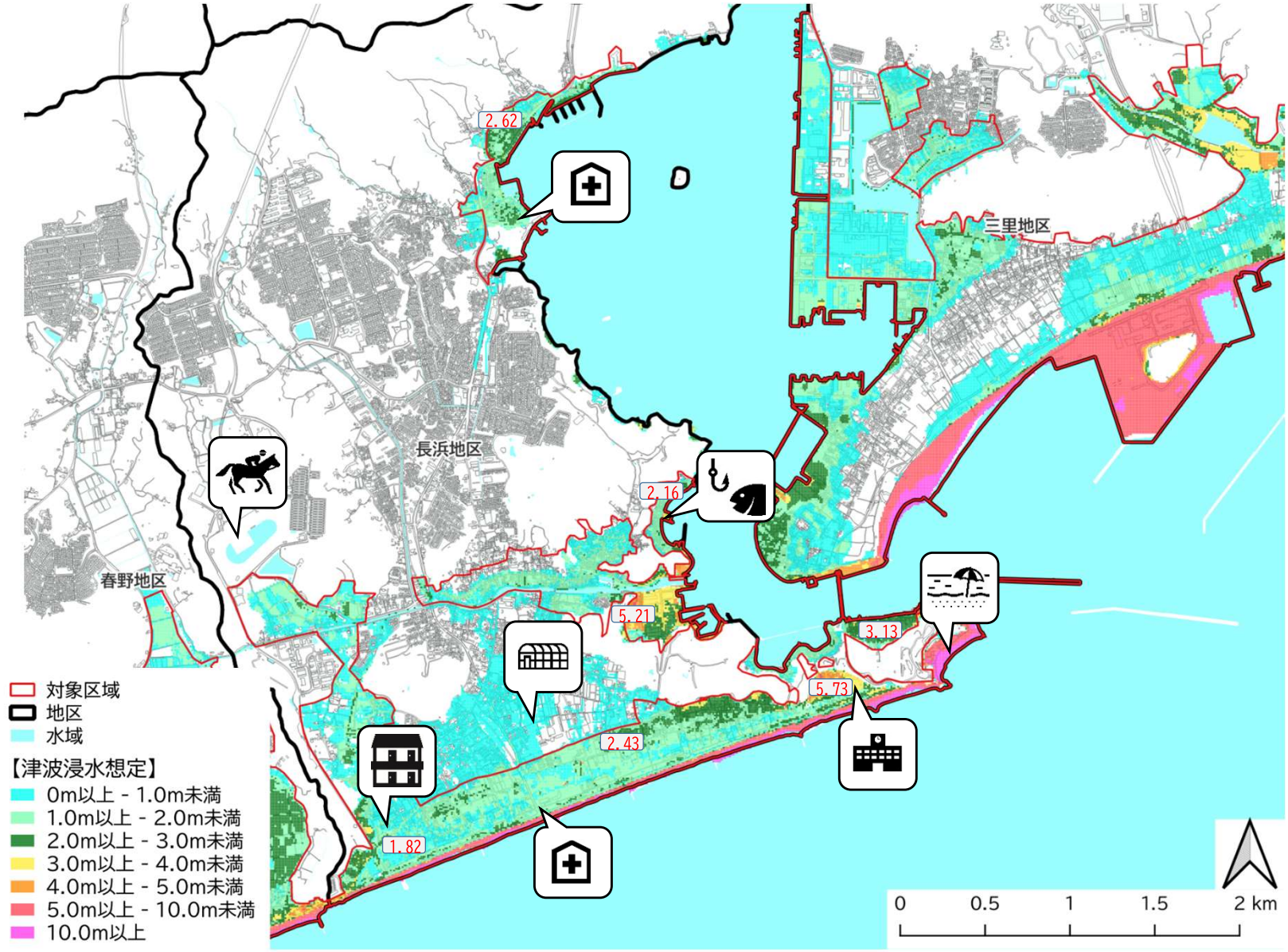
【横浜】



【御畳瀬～浦戸】



高知市で想定される災害について～事前復興まちづくりの津波浸水想定





このシミュレーションは、堤防等の耐震整備が完了している区間及び耐震整備の計画がある区間が「破壊しない」と仮定した場合のものです。

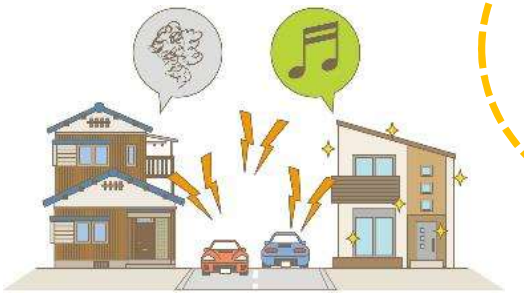
さぁ、みんなで話し合ってみよう！



ワーク１：**長浜地区のいいところ・残したいもの**、**普段の生活で困っていること**について、意見を共有しましょう。

被災後の住民への
メッセージ的なもの
ビジョン＝目指すべき姿
を考える





普段の生活で困っていることを**復興パターンで解消**する
＝より良い復興

例）つながる安心
自然と共に生きるまち

復興パターンへ反映

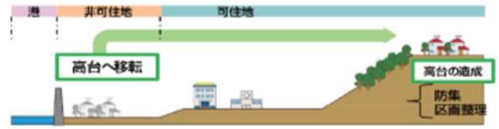
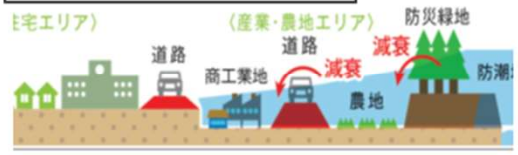
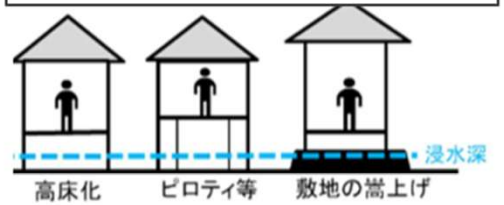
津波浸水深と復興の種類の関係性

移転・嵩上げ

2ｍ以上

2ｍ未満

現地再建

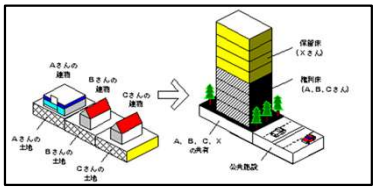
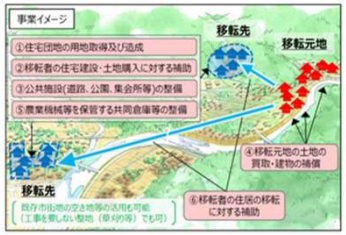
浸水深	考え方	復興の方向	復興パターン	パターンイメージ
３m以上 （２階以上）	大規模再編	**大規模な基盤・土地利用の整備が必要**	・高台移転 （元地は建築制限） ・大規模な嵩上げ	■高台移転イメージ 
２～３m未満 （１階天井）	改善復興	**嵩上げや道路等基盤の整備が必要**	・高台移転 ・嵩上げ ・街区単位等の嵩上げや建築規制等	■嵩上げイメージ 
１～２m未満	修復復興	家屋の再利用が可能 浸水深の低減，避難の安全性の向上 狭隘道路や木造家屋が密集する地区については，道路基盤整備等の検討が必要	・二線堤などの多重防御 ・嵩上げ	■現地再建・多重防御イメージ 
０．３～１m未満	現地復興	家屋の再利用が可能となる軽微な被害 避難対策と合わせた現地復興	・浸水深の軽減対策 ・既存の居住機能の確保	■現地復興イメージ【浸水深の軽減対策】  出典:水災害リスクを踏まえた防災まちづくりのガイドライン(令和３年５月，国土交通省　都市局 水管理・国土保全局 住宅局)
０～０．３m未満	現状維持	建物の被害は少なく，復興後の津波安全性は高いため現状維持	・現状の居住機能の維持を前提	

※　住宅の復興パターンについては，これまでの都市基盤整備が概成していることから，**原則現地再建を基本**とする。また，東日本大震災等での建物被災状況を踏まえ，**浸水深２m超を基準として，高台移転も復興パターンの選択肢として検討**する。

※　農地や商業地については現地再建を基本とするほか，浸水深２m以上のエリアも候補として立地を検討する。

【復興パターンの概要説明】

【復興パターンにおける事業手法の内容】

	現地再建（嵩上げ含む）	移転
ポイント	住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 ➡道路基盤の整備と共同化、面的嵩上げ等による安全な居住空間の確保	甚大な被害が想定される箇所からの、高台や内陸への移転による、安全な居住地の確保・コミュニティの維持
主な活用事業	・市街地再開発事業、土地区画整理事業 権利変換による共同床の取得 ・災害査定による原形復旧  	・防災集団移転促進事業 元地の売却と安全な宅地の取得 
効果 （メリット）	・現在の生活再建、コミュニティの維持 ・土地利用の高度化、最適化(集約化) ・国等の支援措置の活用	・安全な場所への移転による生命や財産の安全性確保 ・国等における支援措置の活用
課題 （デメリット）	・合意形成の長期化、整備の長期化 ・減歩や権利変換などの負担 ・居住・経営形態の変化	・合意形成の長期化 ・コミュニティの分断 ・利便性の低下

復興パターンの検討～主要イメージ

【地区の被害特性】

- 津波浸水被害については、海岸沿いに２ｍ以上の箇所がみられ、各地区の特性に応じた対策がポイント
- 藻洲潟地区では全域、浦戸地区では大半が浸水深２ｍ以上
- 横浜、御畳瀬、長浜地区（花海道沿道）では、一部が２ｍ以上
- 移転対応案は地区内で公用地を活用した移転用地も検討

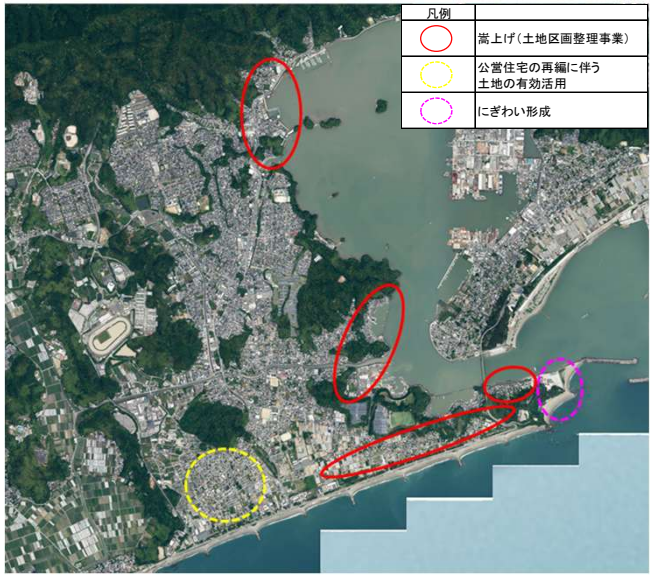
復興ビジョン

海と歴史・文化をいかした にぎわいとやすらぎのまち

浦戸湾や太平洋、桂浜などの「海」と「観光資源」に恵まれた地域であり魅力ある観光拠点となると同時に、暮らす人々にとって「集落が安らぎ、心穏やかに暮らせる場」であり続けることを目指す。

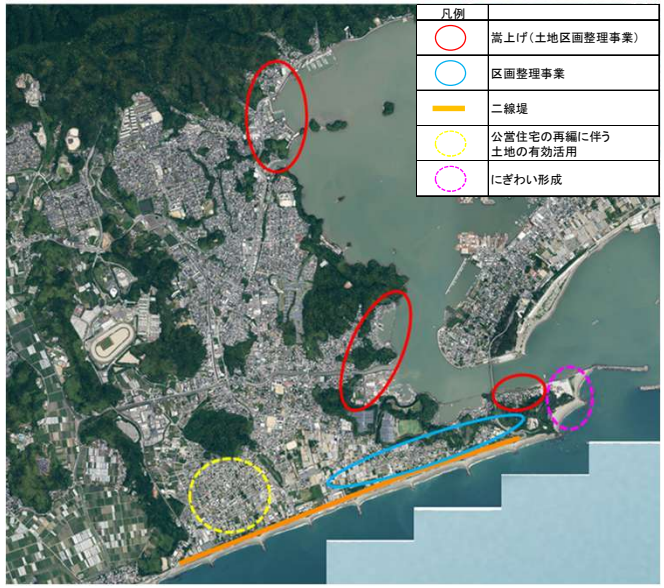
また、歴史や文化に触れながら観光拠点の復興とあわせて、生活道路や防災機能の強化、コミュニティの居場所づくりなどを進め、持続可能なまちの再生を目標とする。

【第１案】嵩上げ案



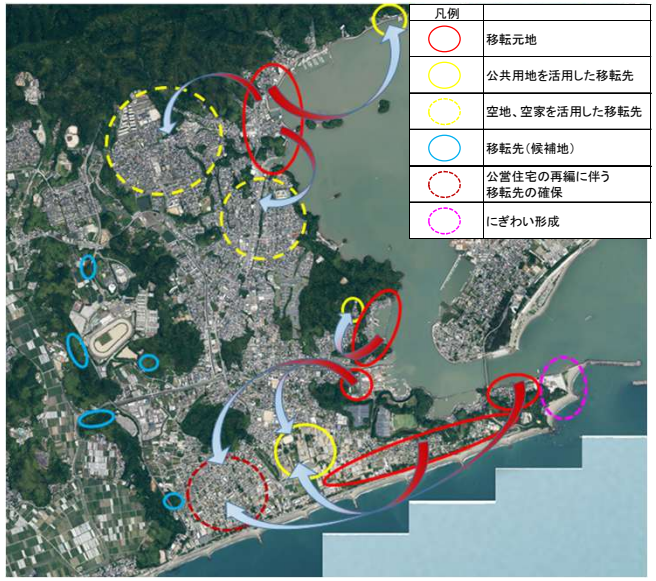
- 被災した市街地の嵩上げ対応による現地復興

【第２案】嵩上げ(一部)＋二線堤形成案



- 被災した市街地の嵩上げと二線堤を整備した現地復興

【第３案】移転対応案

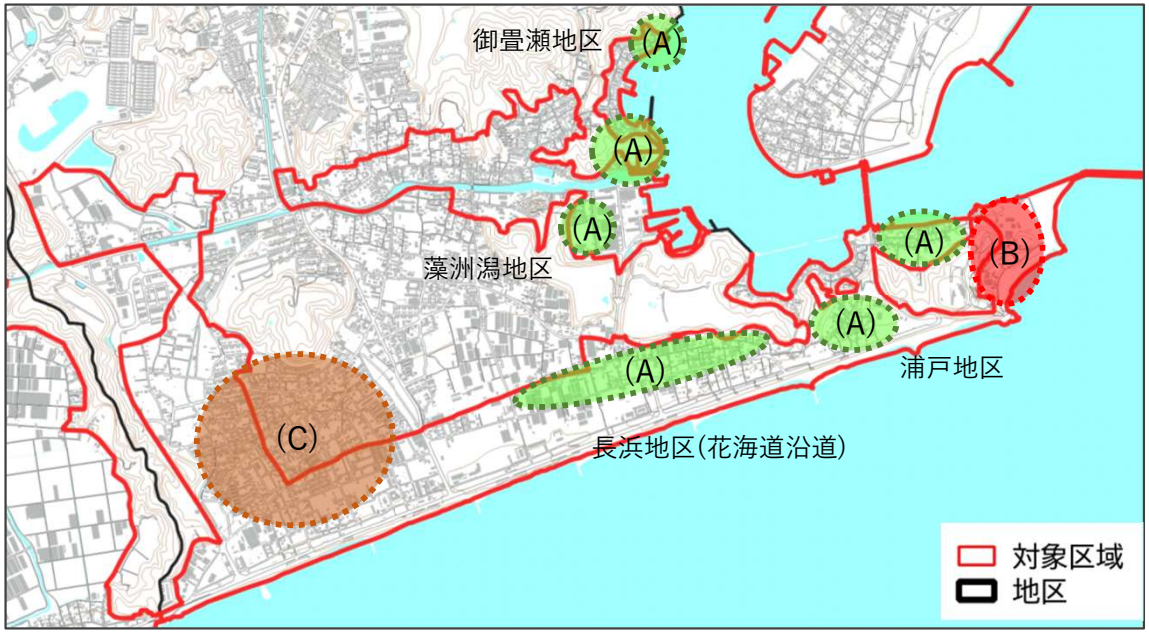


- 隣接地だけでなく、公有地等を活用した高台等を整備

第１案
嵩上げ案

〇全体の主な方向性　**住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持**
- 集落の現地再生(甚大な被災が想定される地区で面的嵩上げにより津波安全性の高い住宅地を復興)
- 地区の安全性の向上
- まちの迅速な復興と再生

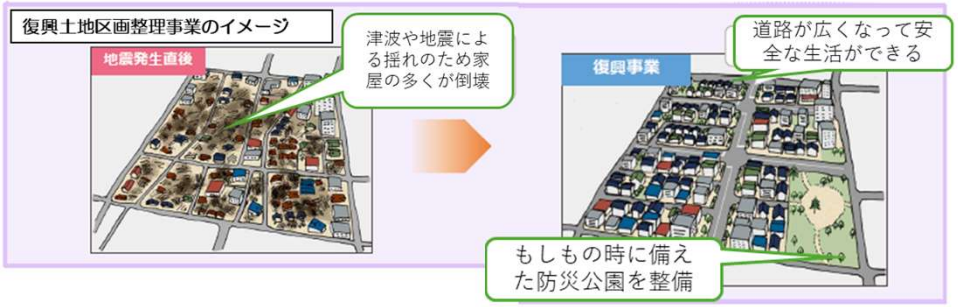




(A)　嵩上げ(土地区画整理事業)

(B)　にぎわい形成(桂浜観光拠点の再生)

(C)　市営住宅・改良住宅の再編に合わせた災害公営住宅の検討



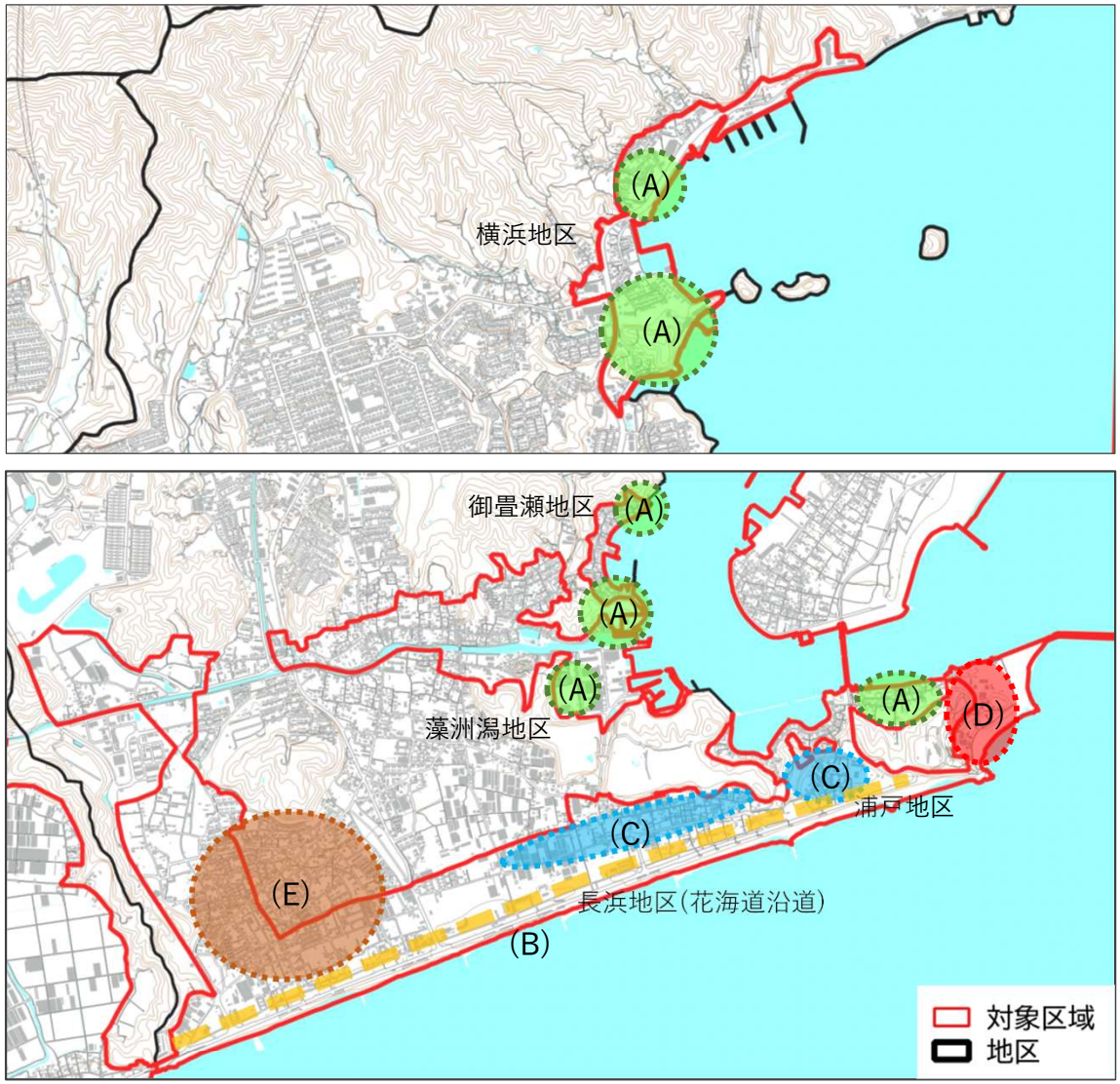
市川市震災復興マニュアル資料を活用させていただき加工

第２案
嵩上げ(一部)
＋二線堤形成案

〇全体の主な方向性　**住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持**

・住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持。浦戸市街地について後背地での安全な住宅地を形成

➡嵩上げと合わせて広範な浸水が見られる浦戸地区等について、花海道北側市道の二線堤整備による防護により広い範囲の浸水を軽減し、津波安全性を高める



(A)　嵩上げ(土地区画整理事業)

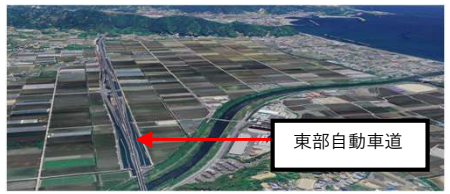
(B)二線堤（花海道北側市道）

(C)　被災市街地の再整備(土地区画整理事業等)

(D)　にぎわい形成(桂浜観光拠点の再生)

(E)　市営住宅・改良住宅の再編に合わせた災害公営住宅の検討

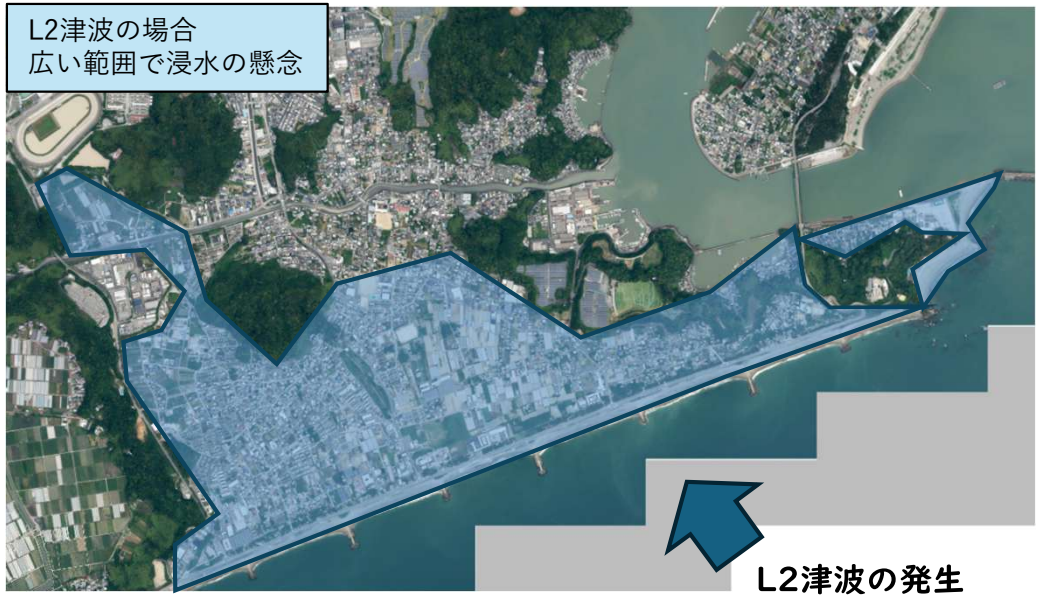
二線堤イメージ

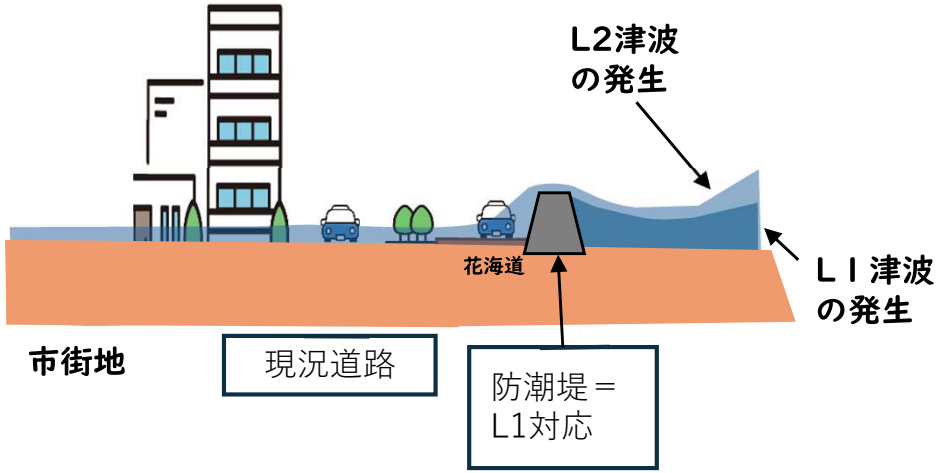




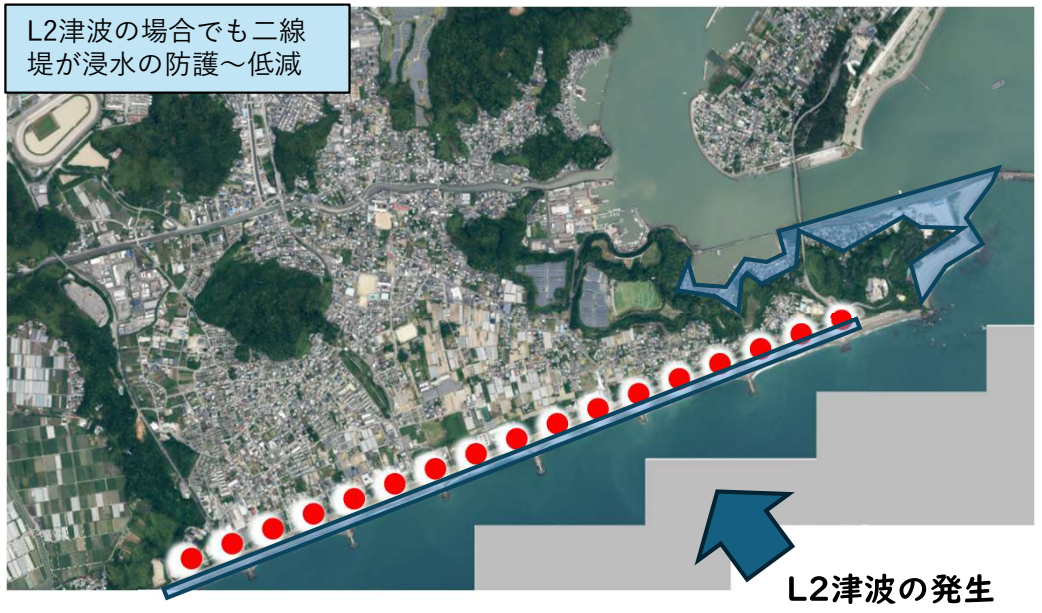
二線堤形成イメージ(二線堤の効果等)

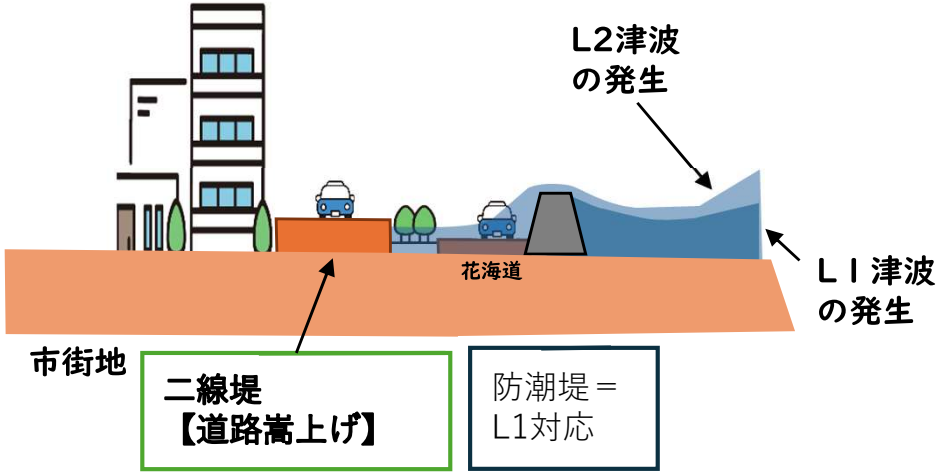
津波による被災イメージ





二線堤による復興イメージ

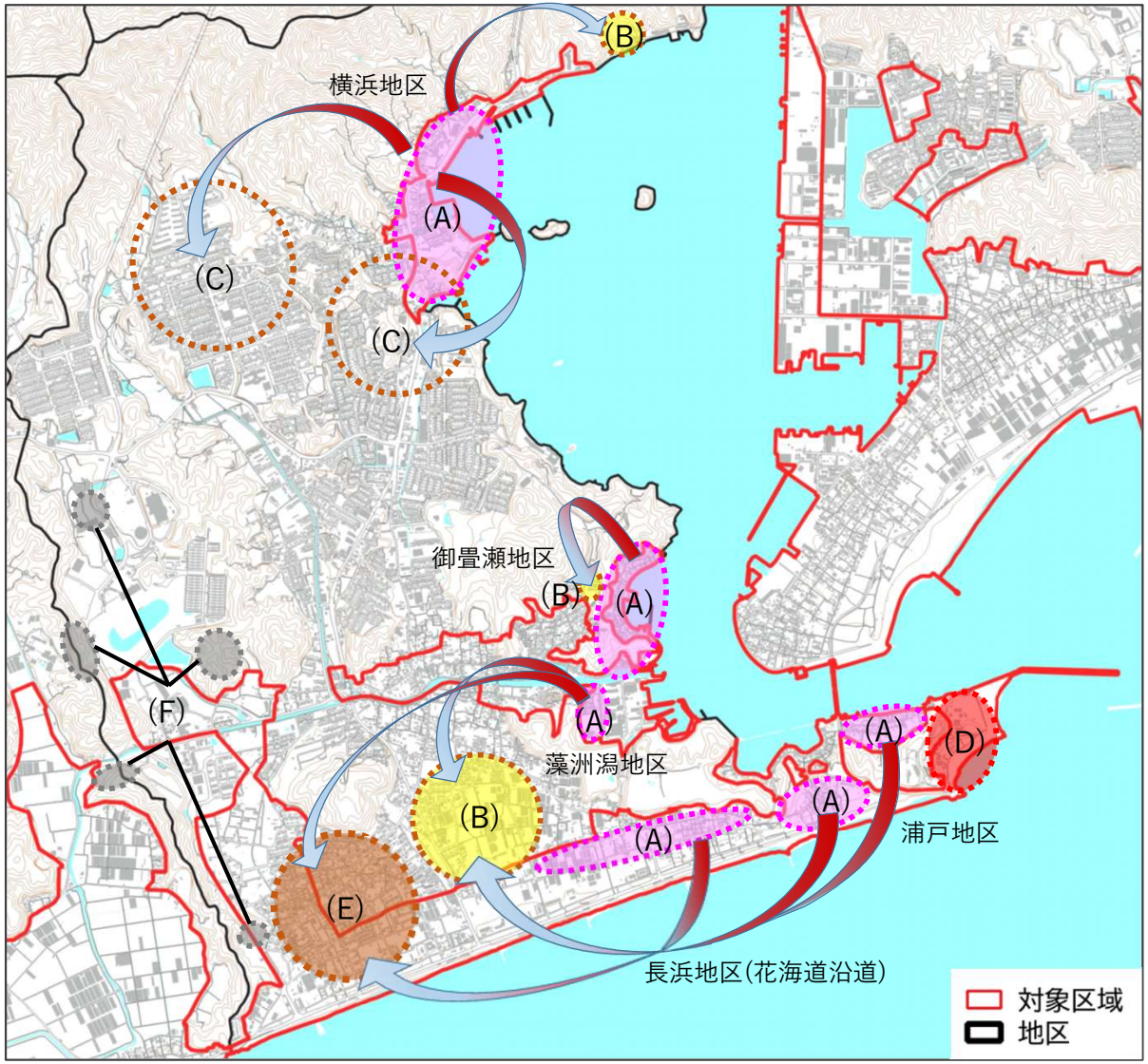




※津波高さや浸水深等はおおよそのイメージを示しています。

第３案
移転対応案

○全体の主な方向性　高台移転によるコミュニティの維持
- 甚大な被害が想定される箇所の高台移転によるコミュニティの維持
- 地区の安全性の向上
- 津波浸水からのまちの迅速な復興



(A) 移転元の集落等

(B) 遊休地等を活用した移転先

(C) 空地、空家を活用した移転

(D) にぎわい形成(桂浜観光拠点の再生)

(E) 市営住宅・改良住宅の再編に合わせた災害公営住宅や移転先住宅地の整備の検討

(F) 移転候補地（公共用地）

復興パターンのまとめ

復興パターン	１案　嵩上げ案	２案　嵩上げ(一部)＋二線堤形成案	３案　移転対応案
ポイント	・**住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持** ➡甚大な被災が想定される地区では嵩上げにより、津波安全性の高い住宅地を復興	・**住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持** ・**二線堤による安全な市街地復興** ➡嵩上げと合わせて二線堤により広い範囲の浸水を軽減し、津波安全性を高める	・**安全な住宅地でコミュニティを形成** ・**浸水２ｍ以上の**甚大な被害が想定される箇所の**高台移転によるコミュニティの維持**
活用事業	・土地区画整理事業（嵩上げ） 	・土地区画整理事業（嵩上げ） ・道路嵩上げ等による二線堤の整備 （長浜地区（花海道沿道）） 	・防災集団移転促進事業 ・移転元地の公園事業 （災害危険区域） 
メリット	・現地での生活再建、コミュニティの再構築 ・嵩上げ箇所での防災機能等の安全性向上 ・土地利用の最適化(集約化)が図れる	・現地での生活再建、コミュニティの再構築 ・より広範囲での防災機能等の安全性向上 ・土地利用の最適化(集約化)が図れる	・安全な場所への移転により生命や財産を守ることができる。 ・移転先で集落機能を再編し、コンパクトで暮らしやすいコミュニティの形成が図れる
デメリット	・合意形成の長期化 ・整備の長期化 ・減歩など土地の負担 ・周辺の住宅環境の悪化の恐れ ・再建を断念した人の流出	・合意形成の長期化 ・整備の長期化 ・嵩上げ箇所と整備しない後背地での負担(減歩)の差の発生 ・再建を断念した人の流出	・移転候補地の土地の確保 ・自然環境の悪化 ・高齢者への生活環境への影響 ・移転と現地に残る人が発生し、コミュニティの分断が発生
事業期間	△ （被災から７～８年）	△ （被災から７～８年）　※注3	○ （住宅建設着手まで被災から４～５年）
個人負担 ※注1	△ （土地減歩あり。負担は原則なし。） ※注2	△ （土地減歩あり。負担は原則なし。） ※注2	△ （元地の売却等により宅地取得。住宅建設は個人負担）

※注1：個人による個別嵩上げの場合、東日本大震災では支援の実績があります。
※注2：建物が全壊の場合は異なります。
※注3：二線堤形成案の場合、個人による再建は嵩上げを必要としないため、再建期間が短縮できます。

さぁ、みんなで話し合ってみよう！

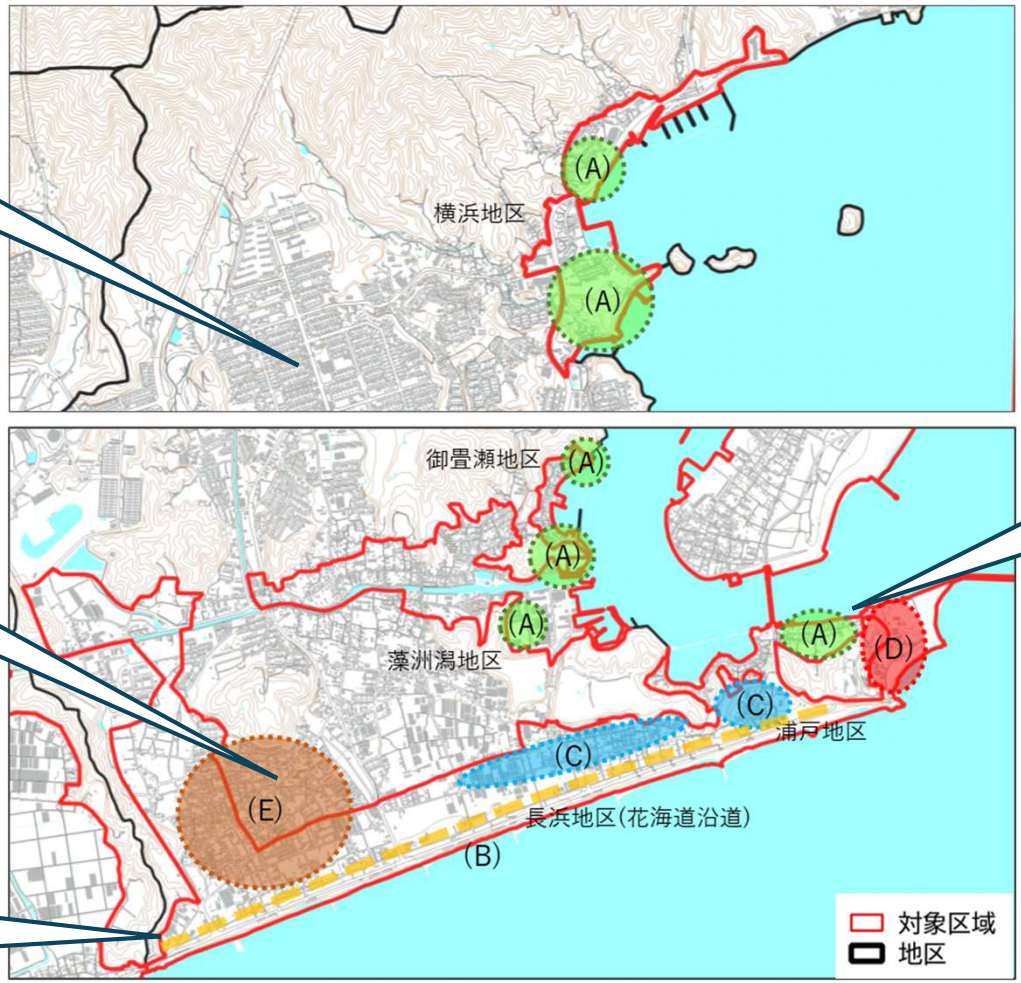
ワーク２：復興パターン３案について、意見を共有しましょう。

安全な場所に住みたい

家の修復費用はどのくらい必要？

利便性は変わらないのか？

新しいコミュニティが不安…





第２回へ意見反映

さぁ、みんなで話し合ってみよう！

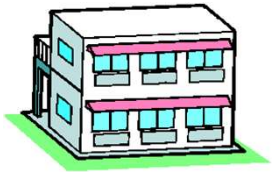
ワーク３：楽しくなるような未来のまちを想像してみましょう。



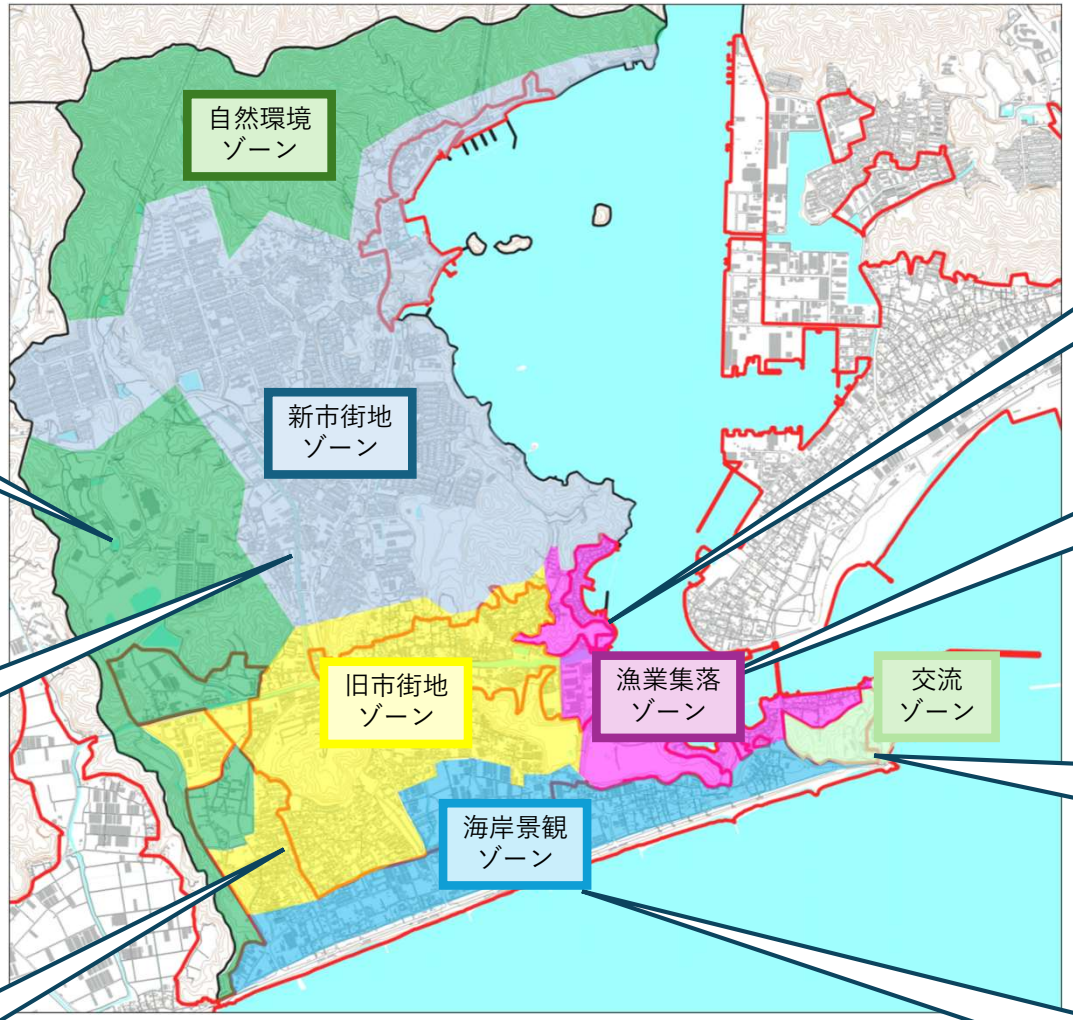
競馬場の
存続



バス頻度を
増やしてほしい



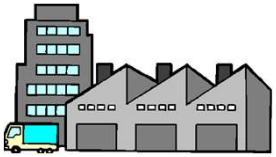
丈夫な家に
住みたい



漁業を続け
てほしい



産業の発展



観光拠点を
守りたい



海辺でアイ
ス食べたい



第２回へ意見反映

次回開催のご案内

第１回ワークショップへのご参加ありがとうございました。
次回もご参加をよろしくお願いいたします。

日時：未定
開催場所：未定
} 決定し次第、案内を送付いたします。

実施内容（予定）
・第１回の振り返り
・意見交換１：目指すべき姿＝ビジョンについて
・意見交換２：修正復興パターンについて
・ワーク４　：速やかに復興するために必要なことについて、意見を共有しましょう。
・まとめ